

差出人： メールニュース／[b-active 株式会社](#)  
件名： 【セルフ・キャリアドック情報 -No.049-】

※本メールは、b-active にメールマガジン配信のご登録をいただいた方、講習会にご参加の方、および名刺交換をさせて頂いた人事の方や企業分野のキャリアコンサルタントの方にお送りしております。もしも、ご意向に沿わない場合など「配信停止」をご希望の方は、お手数ですが最下段の「★配信停止をご希望の方はこちら」からお願い致します。

メールニュース会員 各位

みなさんこんにちは！キャリアコンサルタントの植村格明（うえむらまさあき）です。「企業分野」でキャリアコンサルティング活動をされる方々のサポート機能として、少しでもみなさまのお役に立てればと思います。

【セルフ・キャリアドック情報】

今回も連続で、1月12日（水）に開催しました ACCN テーブル 19「第9回セルフ・キャリアドック・フォーラム」での厚生労働省キャリア形成支援室長 國分一行様の「問い」へのわたくしの考えや意見お伝えいたします。

今回は「問い3の後半、デメリット？」についてですが、企業内キャリアコンサルティングやセルフ・キャリアドックで、懸念されるデメリットとは何でしょうか？皆さんは何か思いつきますか？

一般的に最もよく言われることが、「キャリア自律を支援すると離職してしまう」ではないでしょうか？特に中小企業の経営者の方からは未だによく耳にする意見です。実は昨年も、元中小企業庁の方から言われました。正直な反応なのですね。

皆さんも勿論 NO と言えと思いますが、その理由の説明はいかがですか？わたくしは通常次の2点を丁寧かつ具体的にお話するように心掛けています。セルフ・キャリアドックを導入することで可能なプロセス・コンサルテーションについてです。

1 点目は組織のビジョンや人材戦略、あるべき人材像が個々の従業員にしっかりと腹落ちし、組織の想いを分かり易く共有できる機会となります。その結果、個人がその想いにキャリアを摺り合わせるよう支援しエンゲージメント向上に繋がります。

2 点目は、キャリア支援による 1on1 面談の対話の実施で、コミュニケーション量の増加により個人と組織間の誤解やすれ違いを減少させ、不満や不安による離職リスクを低減できます。勿論、専門家であるキャリアコンサルタントだから可能です。

他にデメリットとして「費用対効果が見えない」との意見に対して、わたくしの場合は「個々のキャリア・データ

ベースが構築できます]や「人的資産として P&L ではなく B/S を良くする活動です」と説明し、費用ではなく人材への投資との理解を求めます。

また、実際にあったケースとして具体的なプログラム例と料金例を提示することで、過度に高いのでは？と誤解している場合で、ご納得をいただくこともありました。外部は料金体系が重要ですし、企業内の場合にはヘッドカウントと人件費でしょうか。

他には、「現場での上司との 1on1 があるので不要]や「上司以外が話を聞くと指示命令系統が混乱」、「守秘義務での密室話では無意味」、「忙しくて集める時間が無い]など、運用面でのデメリットを指摘する誤解も多々あるのではと思います。

そのような場合には誤解の背景を明確に理解した上で、より具体的なプログラムの運用内容を説明することが必要ですし、このコンサルテーションが大変重要なパートになります。上記誤解については、問い 4、5、6 の中でも詳しく触れてまいります。

次回は、「問い 4 人事部門との協働や役割分担、守秘義務と情報共有、報告は？」について意見を述べたいと思いますが、ぜひ皆さまからもご意見などをいただければ幸いです。

\* 3 月度のセルフ・キャリアドック・フォーラムに再度國分室長様にご参加いただく予定ですので、企業内キャリアコンサルタントの方は、ぜひ ACCN テーブル 19 へのご参加をお待ちしております。

お問合せ：ACCN Table No19 大阪万博・共創チャレンジ事務局 [team.accn.table19@gmail.com](mailto:team.accn.table19@gmail.com)

———— キャリアコンサルタント国家資格【更新講習】受講をご検討のみなさまへ ————

【技能更新講習】セルフ・キャリアドック「面談実践」コース（6 時間）は 3 月 13 日（日）

【技能更新講習】セルフ・キャリアドック「ワークショップ実践」コース（6 時間）は 3 月 20 日（日）

【技能更新講習】セルフ・キャリアドック「全体報告実践」コース（6 時間）は 3 月 27 日（日）

お申込みは b-active ホームページ <https://www.b-active.co/lecture> 「オンライン講習」

☆最後まで読んでいただき、本当にありがとうございます。

一人ひとりの「働きがい」「生きがい」と共に / すべては対話から

b-active 株式会社 [www.b-active.co](http://www.b-active.co)

Copyright© 2022 b-active Inc.